

看護職部門



## 今度は天国から

【福岡県】穴井麻里 34歳

小学校からの夢であった看護師になり、たくさんの出会い、そして別れがあった13年間。忘れられない思い出がたくさんある中でTさん  
を思い出した。

白髪で少しふくらとした優しい笑顔のTさん。看護学生だった私が初めてあいさつを交わした時の最初の印象だ。70代で白血病を発症し、高齢での抗がん剤治療のため、体力的にも負担のかかる入院生活。鬱の既往もあり、表情がさえない日も多かった。たった一人の弟さんが毎日欠かさず丁寧に一口大にむいた果物を届けに会いに来られた時はいつもうれしそうに見えた。  
そんなTさんを見て実習中は少しでも気分転換をと大好きな折り

紙を楽しみ、体調がいい日は車いす  
で花屋やチャペルに散歩に行つた。その時の笑顔は今でも忘れられない。

3週間の実習はあつという間に過ぎ、最終日、Tさんの希望と一緒に写真を撮つた。主治医が「よか写真ばとるけん綺麗に化粧しよう！」  
と言ひ、一緒に化粧を楽しむTさんが一瞬、つらい治療のことを忘れ、穏やかな空気に包まれているように感じた。まさに私が理想とする看護であつた。看護師になり希望叶つて配属となつた血液内科で再びTさんと出会つた。看護師になつた私を見てTさんはとても喜んでくれた。実習のようにベッドサイドにずっといることはできなかったが、Tさんはしっかりと私の姿を見守つて

くれていた。しかし、病魔はゆつくりとTさんの体を蝕んでいつた。

ある日、いつものように声を掛けると「今までありがとう。今度は天国から応援するからね」と私に言つた。まだ自分のことはできる状態なのに「なぜそんなこと言うの!?」と自分でも止められない涙があふれた。でも、Tさんは自分の命の限界が分かっていたのだらうか……。その夜、容態が急変し、弟さん到着後、天国へと旅立つた。  
「実習にて吾を看とりて女子の深き情に心いやさる」  
Tさんが私に書いてくださった一首。これから先もこの歌を胸にこれから出会う方々の「心」に寄り添える看護師であり続けたいと思う。